

様式第3号(第7条関係)

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 平成27年度第3回水戸市協働推進委員会
- 2 開催日時 平成28年2月24日(水) 午後1時30分から午後5時50分まで
- 3 開催場所 水戸市国際交流センター 多目的ホール・研修室1
- 4 出席した者の氏名
- (1) 委員 委員長 金本 節子, 大野 覚, 平沼 賢治, 金成 滋, 鹿倉 よし江, 高橋 隆慎, 青木 千鶴子, 斎藤 寿子
- (2) 執行機関 【市民生活課】課長 柏 直樹, 副参事兼課長補佐 笠原 昭彦, 協働係長 鬼沢 隆文, 主事 田治 亜紗子
【文化交流課】課長補佐 藪田 照美, 文化交流係長 大森 明彦
【高齢福祉課】高齢福祉係長 木村 陽子, 主事 橋川 真衣
【公園緑地課】課長補佐 鶴井 昭宏
【環境課】保全係長 佐藤 倫子
【商工課】副参事 萩谷 慎一, 市街地活性係 主事 杉本 祐司
【観光課】事業係長 根本 隆弘
【農政課】課長補佐 深澤 和広, 企画係長 後藤 俊之
【生涯学習課】課長補佐 上田 航也
【総合教育研究所】放課後児童係 主事 城戸 真奈美
- (3) その他 Play_Park310
グローバルフェスタいばらき実行委員会
株式会社 I F P
渡里湧水群を活かす会
認定特定非営利活動法人 水戸こどもの劇場
株式会社 日宣メディックス
一般社団法人 茨城県健康生きがづくり協議会
グローバルキグループと支える会
- 5 議題及び公開・非公開の別 協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」に係る平成28年度提案事業の公開プレゼンテーション(公開)
全体審議(非公開)

- 6 非公開の理由 (全体審議)
- ① 公にすることにより、当該団体の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるため。
 - ② 公にすることにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ又は不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれがあるため。

7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 17人

8 会議資料の名称 平成28年度提案事業の概要

9 発言の内容

【公開プレゼンテーション】

事務局	(開会の挨拶, 進行についての説明)
委員長	ただ今から、平成28年度水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」の公開プレゼンテーションを始める。提案のあった8事業について、提案団体と市担当課から、事業の概要、協働による効果、役割などについて発表していただく。
提案団体 生涯学習課 公園緑地課	〔発表：「外遊び」の力を次世代へ ～子どもの力を地域の力に～〕
委員	2年目の提案となるが、1年目と比べて2年目は何が発展するのか、1年目の実施状況を踏まえて何が課題なのかについて教えていただきたい。 また、プレイパークを実施する費用として、単純計算で1回当たり10万円かかることになるが、内訳等の説明を聞きたい。
提案団体	1年目と比べて何が発展するのかについて、1年目は、周りに団地があり、子どもがたくさんいるということで、双葉台だけで実施していたが、2年目は、児童公園など、身近にある場所での開催を考えている。 費用については、実際は1回の実施に10万円はかからない。プレイパークの実施費用以外に、事故や怪我がないようにするための安全講習の開催や安全に過ごせるための物品の購入、子どもの保険代、プレイパーク開催を周知するための広報などに費用がかかっている。 課題については、子どもたちがより身近な場所で気軽に遊べるようにすることと、市外から活動を見学しに来てくれる人もいるため、このような活動が今後いろいろな所に広がって、実施団体間のネットワークも作ってほしいと思っている。
委員	子どもたちにはどのように周知しているのか。事業を継続するためにどのようなことをするのか。活動の輪を広げるためにどのようなことをするのか。この3点について伺いたい。

提案団体	<p>双葉台地区の保育園や幼稚園，小学校，中学校にチラシを配っている。また，フェイスブックページも開設しており，それを見て来てくれる人も半数程度いる。最近では，親同士の口コミでも広がっている。</p> <p>現在は数名で事業を実施しているので，事業を継続するためには，仲間を増やしていくことが必要だと考えている。</p> <p>活動の輪を広げるために，シルバー世代の人たちの力も借りながら，多世代で交流できるような場にしたい。また，プレイパークに参加した子どもたちが大きくなった時に，スタッフとしてまた参加してほしいと考えている。</p>
委員	フェイスブックのアクセス数はどのくらいなのか。
提案団体	現在186件となっている。
委員	今の子どもたちがスタッフとして参加するまでは，まだ何年もかかるので，今後の事業継続に向けて，すぐに実践できることも考えていただきたい。
提案団体 商工課	【発表：外国人が買い物し易い商店街づくり】
委員	フェアトレード商品を買ってもらうために，イベントに出展してPRしたということだが，更に広く周知していく方法を考える必要があると思う。また，免税店の導入について，28年度以降の計画があれば伺いたい。
提案団体	<p>商店会からのアドバイスでイベントに出展し，フェアトレード商品のPRをした。今後は，フェイスブックやホームページなどの情報メディアを使って，情報発信に取り組みたいと考えている。</p> <p>免税店については，県内では130店舗，水戸市では26店舗で実施しているが，そのほとんどが大型の商業施設で行っている。免税店を導入することは，外国人にとってとても大切だと思っているので，先進事例も調べながら，商店会に働きかけていきたいと考えている。</p>
委員	グローバルフェスタでの外国人の評価を聞かせていただきたい。
提案団体	外国人は，日本人と気軽に話せたことに大変喜んでいて。イベント自体の評価は良かったが，交通の便が悪いことや，駐車場がないことなどの指摘があった。
委員	グローバルフェスタは11名で企画運営しているのか。
提案団体	<p>国際交流関係の各団体の代表者が集まって実行委員会ができています。それぞれの団体には50～100人の会員が所属しているため，多くのサポートが得られるし，グローバルフェスタの周知も会員を通して実施できる。</p> <p>今後は，グローバルフェスタ専用の実行委員会も作ろうと思っているので，更に充実した組織ができると思う。いろいろな団体と協力して事業を行っていききたい。</p>

提案団体 高齢福祉課	〔発表：セカンドライフを考える ～幸せシニアライフ講座～〕
委員	<p>昨年は、自分の人生が終わってしまうような気がして、一人では書くことができなかったが、発表を聞いて、今年はより気楽に書けるような講座を実施するということなので、この講座をきっかけに、高齢者が外に出る機会になれば良いと思う。</p>
委員	<p>講座参加者の男女比はどのようになっているのか。</p>
提案団体	<p>約3分の1が男性で、女性の方が多い。</p>
委員	<p>気楽に参加できるという点が大切だと思う。今後、出前講座のようなものに組み替えることもできると思う。</p>
委員	<p>今年の講座は、1回の完結型で90分ということだが、内容についてどのような構成になるのか教えていただきたい。また、参加費について今年は300円となっていることについて説明していただきたい。</p>
高齢福祉課	<p>今年は、高齢者支援センターとも協力して講座の開催を考えているので、幸せシニアライフ講座を90分、センターからの高齢者虐待や成年後見制度などの講座を30分などの構成を考えている。また、各地域の関心やニーズに合わせて、講座の内容を柔軟に変えられるようにしたいと考えている。</p> <p>受講料について、昨年は500円だったが、できるだけ低い価格の方が参加しやすいということで、今年は300円とした。</p>
委員	<p>8回実施となっているが、連続講座なのか。</p>
高齢福祉課	<p>1回の完結型で考えているが、各地域のニーズによって内容を少しずつ変えていくことも検討し、何回でも参加できる形にしたいと考えている。</p>
提案団体 環境課 公園緑地課	〔発表：渡里湧水群の保全と活用〕
委員	<p>田野川の整備について具体的に説明していただきたい。</p>
提案団体	<p>遊歩道のすぐ隣が田野川になっているが、河川敷から竹が生えており、川が見えなくなっている。鮭の遡上もあるという話だが、鮭が通れないほど竹が生えていたり、ゴミが絡まっているため、今年は、川の中に入って整備したいと考えている。また、田野川は茨城県の管理となっているため、水戸市に県とも連携を取っていただき、整備していきたい。</p>
委員	<p>整備だけで何年もかかってしまうと思う。補助がなくなった時にどうなるのか。七つ洞公園のように市民が散策できるような場所になればいいと思うが、考えを聞きたい。</p>

提案団体	<p>「湧水公園」として整備するまでは、我々も大変なことだと認識しているが、「水と緑の遊歩道」を作って、地道に活動していきたい。</p> <p>補助がなくなったとしても、市はできる限りのことは手伝いますと言ってくれたので、地域の人たちが和気あいあいと楽しく活動を続けていければいいと思っている。</p>
委員	<p>子どもはどのくらい参加しているのか。自然は未来の子どもたちからの預かりものなので、このような活動は永続的に続けていかなければならないと思う。</p>
提案団体	<p>作業の日は、子どもの参加は1人いるかいないかだが、一般に公開したときは老若男女多くの方が参加してくれた。また、最近では、茨城大学や常磐大学の学生も参加している。</p>
委員	<p>災害時の水資源の確保について、具体的にどのようなことができるのか教えていただきたい。</p>
提案団体	<p>田野川は逆川に匹敵するほど多くの湧水量があり、環境課が水質検査をしたところ、煮沸すれば飲料水としても使えることが分かったので、災害時には大変役立つと考えている。</p>
提案団体 総合教育研究所	<p>〔発表：21世紀の「生きる力」ICT活用向上プロジェクト〕</p>
委員	<p>子どもたちの参加費が5,000円ということか。</p>
提案団体	<p>子どもの参加費は無料である。ファシリテーター育成のための研修参加費が5,000円ということである。</p>
委員	<p>この講座は、プログラミング言語を使わずに感覚的にプログラミングの仕組みが理解できるものだと認識していたが、映像を見ると、ツールを使って単にゲームをしているだけのように感じたので、もう少し説明していただきたい。</p>
提案団体	<p>プログラミングの考え方には、パーツを組み立てて製品をつくる「プラモデル型」と、文字や数字を使わずに“メガネ”を組み合わせてゲームやシミュレーションを作ったりする「ねんど型」がある。この講座では、コンピューターは、ねんどのように使えるという感覚を子どもたちに伝えたいと思っている。</p>
委員	<p>出張型ワークショップはどのような構想を考えているのか。</p>
提案団体	<p>環境の違う2か所で3回ずつ、計6回実験的にワークショップを実施し、その成果を公表し、次年度につなげていきたいと考えている。</p>
委員	<p>ニーズがあれば、学校などでワークショップを行うことも考えているのか。</p>

提案団体	スタッフと機材があればそうしていきたいと考えている。
委員	昨年発表した時との改善点はどこなのか聞きたい。また、担当課は、どのような点が水戸市の教育現場にこの事業が必要なのか意見を聞きたい。
提案団体	21世紀は間違いなくコンピューターを人間の創造力で動かさなければならない時代が来る。単にソフトを使うのではなく、コンピューターが自分の創造を形にできる道具であることを理解することが必要だと思う。このような事業を予算化して教育の中に取り込んでいる自治体は増えているので、水戸市でも実施したいと考えている。
総合教育研究所	この事業は、子どもにコンピューターとの付き合い方を教えるのではなく、コンピューターを道具として使う付き合い方を感覚として掴んでもらうことを目的としている。既存のソフトをただ使うのではなく、コンピューターを道具として使えるという認識が、これからいろいろな所で必要になってくると考えている。
提案団体 観光課	〔発表：谷中二十三夜尊骨董市賑わい創出事業〕
委員	県内の他の市町村で骨董市を実施する際は、協働ではなく単独で実施しているが、水戸ではなぜ協働で実施しなければならないのか、観光課に伺いたい。
観光課	保和苑は、ロマンチックゾーンとして整備し、賑わいを取り戻したいと考えてきたが、うまくいっていないのが現状である。そこで新しい事業を1事業者がするという事になると、PR力の面で問題がある。ネームバリューのある市と関わることによって、PR力が高まり、情報発信もできるため、協働する効果があると考えている。
委員	三夜尊周辺が賑やかになってほしいと誰もが願っていると思うが、飲食ブースを作ることに商店会の了解を得られるのか。商店会を巻き込んで実行委員会などを作らないと地域の理解を得られないと思う。
提案団体	三夜尊青年部の方によると、商店会が実際には機能していないということなので、青年部の人たちと協力することによって、商店会と共存していきたいと考えている。そもそも商店会の理解がなければ、このイベント自体実施できないので、協力してやっていきたいと考えている。
委員	実行委員会を立ち上げるのは今のところ難しいということか。
提案団体	今のところ実行委員会の立上げは考えていない。今年は、毎月の開催ではなく、3か月に1回実験的に実施し、着実に軌道に乗せていきたいと考えている。
委員	過去に三夜尊で骨董市を開催したことがあるのか。また、空き店舗が増えている現状があるので、三夜尊ではイベントを実施し、空き店舗で骨董市を開催してはどうか。

提案団体	三夜尊での骨董市の開催は今回が初めてなので、PRをしっかりとやっていきたいと考えている。また、空き店舗の活用も今後考えていきたい。
提案団体 農政課	〔発表：水戸オーガニ蕎麦プロジェクト ～蕎麦作りの全行程を都市の人々と地域住民で楽しむ～〕
委員	水戸市と協働で実施する意味をもう少し説明していただきたい。
提案団体	水戸市からは遊休耕地を紹介していただいた。また、農作業に取り組む人が少なく、会員が増えない現状があるので、水戸市のPR力で増やしていきたいと考えている。
委員	協働することによって水戸市にとってメリットはあるのか。
農政課	農業基本計画の中で、農業者の支援策、一般の人々への農業普及、農業を身近に感じてもらう施策や農村地域の活性化などの施策も掲げており、市と団体の考えが一致したため協働するメリットは十分あると考えている。
委員	都会の人々を呼び込むことでリピーターとして定着させるという点に関心を持ったが、PRの仕方が重要になってくると思う。単にホームページに掲載するだけでは不十分なため、都内で行われるイベントに参加してPRするなど工夫が必要だと思う。都会の人々を呼び込むことはなかなか難しいことだと思うが、PRの方法についてどう考えているか。
提案団体	銀座にある茨城マルシェに1,000部ほどチラシを配ったが、実際の参加者はゼロだった。今後はどこかの区と連携してPRすることを考えている。
委員	区民センターにチラシを置いたり、ポスターを掲示するなどの方法も考えられると思う。是非頑張ってください。
提案団体 文化交流課	〔発表：スマイルアースプロジェクト ～外国人も日本人も住みやすい地域をつくる～〕
委員	協働による効果を具体的に伺いたい。
提案団体	外国人にとっては、日本人と触れ合うことが難しく、話し合うことや声をかけることがなかなかできなかったが、交流イベントに参加することで、友達が増えたり、生活のために必要な情報を得ることもできた。このような経験から、この活動を始めた。
委員	市ではどう考えているのか。
文化交流課	外国人が企画運営に携わることで、本当に外国人が求めていることを直接把握できることが最大のメリットだと考えている。また、市報などでは外国人には情報が届きにくい面もあるが、外国人のネットワークを活用すれば、必要な情報を届けることができることもメリットだと考えている。

委員	活動の拠点は国際交流センターなのか。
文化交流課	国際交流センターを中心に水戸市内の施設での実施を考えている。
委員	インバウンド観光や交流人口を増やすために重要なことは、水戸が本当に外国人にとって住みよいまち、暮らせるまちになることと、迎え入れる日本人の心構えが大切だと思う。そのような面で、将来像として何か考えているのか。
文化交流課	この事業をきっかけに、水戸のまちが外国人にとって住みやすいまちで、ホスピタリティに溢れるまちだというイメージが広がれば良いと考えている。事業の参加者に、母国や家族に対して、水戸は本当に外国人に優しいまちなんだ、日本に行くなら水戸に観光に行ってみようなど、水戸のまちについて発信してもらうことで、インバウンド観光も期待できると考えている。
委員	昨年までは2万円程度の事業規模で、今年からは50万円の事業規模になるが、予算を有効に活用できるのか説明をしていただきたい。また、交流がメインなので、食糧費が15万円程度と多くなっているのはやむを得ないことだが、どのように使っていくのか説明していただきたい。
提案団体	食糧費は参加費や会費で主に賄っていこうと考えている。印刷費については、広報紙を作成し、活動について多くの人に周知できればと思っている。
事務局	(閉会の挨拶、報告会の公開について説明)